別紙４

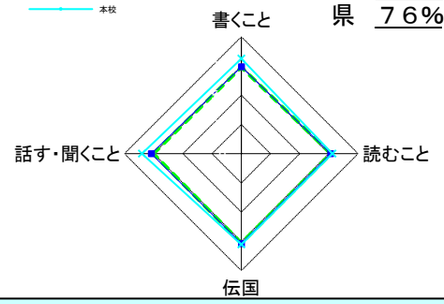
平成３０年度　指導方法等の改善計画について　〔国語科〕

呉市立片山中学校

全国学力･学習状況調査　本年度正答率

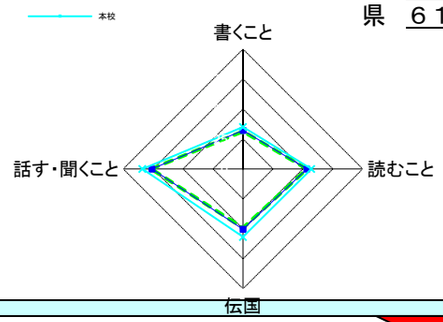
A問題

本校　７９％
全国　76.1%
県　７６％



B問題

本校　６６％
全国　61.2%
県　６１％



重点課題

【課題１】A問題の８三エの正答率が１５．０％であった。「彼はせきを切ったように話し始めた。」で正しい語句を選べていない。他にも８の漢字の読み書き､語句の適切な使用，慣用句の問いにおいて県の正答率を下回っている問題が７問あった。

【課題２】B問題１三「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題において，条件①②を満たしている生徒は１３．３％であった。条件①または②のどちらかのみ満たしている生徒は合わせて５３．４％であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】・漢字・語句の習得プリントを家庭学習において定期的に行う。
・様々な文章を読む機会を増やし，意味調べをしたり,語句の意味に注目させたりして語彙を習得させる。
・慣用句の学習を授業で行う。小テストをして定着させる。苦手な生徒に対しては，カルタなどを使い興味を持って取り組める活動を取り入れる。

【課題２】・グラフを含む説明文を正確に読む活動を取り入れる。
・作文問題で明示されていない条件を読み取り作文を書くという活動を取り入れる。

※　小中一貫した取組については，書く力に課題があるので，条件作文を繰り返し書く活動を取り入れることで発達段階に応じて書く力を身につける指導を行う。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法			３年生 小テスト	１年生 小テスト	２年生 H30「全国学力A」		
目標値			８０％	７０％	７５％		
実施後数値			８４％	７１％	７６％		

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		３年生 小テスト				２年生 H30「全国学力B」	
目標値		６５％				６０％	
実施後数値		６７％				６２％	

来年度に向けて

・普段の授業の中で，今回の重点課題をふまえた指導を計画的に行う。

・公立高校の入試問題をふまえた，定期試験を作成し，その問題を出題することをふまえた授業づくりを推進していく。

別紙４

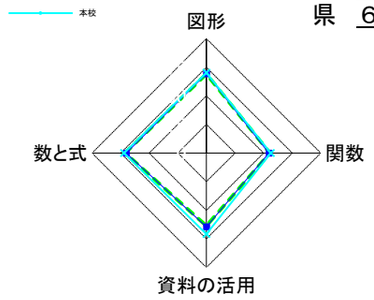
平成３０年度　指導方法等の改善計画について　〔数学科〕

呉市立片山中学校

全国学力･学習状況調査　本年度正答率

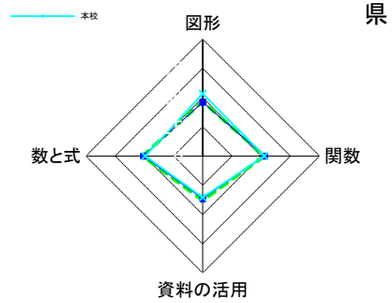
A問題

本校　６８％
全国　66.1%
県　６６％



B問題

本校　４７％
全国　46.9%
県　４６％



重点課題

【課題１】百分率を求める式をつくることができる。《B問題５（1)》文字式（正答率１０．０％）百分率を求める式は，(割合)×１００となるところ，×１００を記述していない生徒が２３．３％いた。

【課題２】グラフから時間差の求め方を説明できる。《B問題３（3)》１次関数（正答率８．４％）① y座標のある値のグラフ上のx座標に着目する。② そのx座標の差について比較する。の２点の記述で正解となるが①のみしか記載のないものと①の記述が十分でないものが３１．７％あった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】割合を小数で求めてから，頭の中で×１００をしているため，百分率の求め方を復習する。ただし，相対度数は小数で表すので注意する。

【課題２】１次関数に限らず，求め方を問う問題の記述が十分でない解答を減らすために，絶えず求め方を問う問題を単元ごとに取り入れ，きちんと文章で完全に説明できる力を定着させる。「～だから」で止めないで，「～だから，～になる」というように結論も必ず記述する練習をしっかりする。

※　小中一貫した取組については，表現力に課題があるので，基礎的用語や内容を定着させ，それらを用いて自分の考えをまとめ互いに説明し合うことで表現力を高める指導を行う。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法				３年生 小テスト		１年生・２年生 小テスト	
目標値				７０％		５０％・６０％	
実施後数値				７１％		５０％・６３％	

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法				３年生 小テスト		２年生 小テスト	
目標値				４０％		４０％	
実施後数値				４８％		４５％	

来年度に向けて

・普段の授業の中で，今回の重点課題をふまえた指導を計画的に行う。

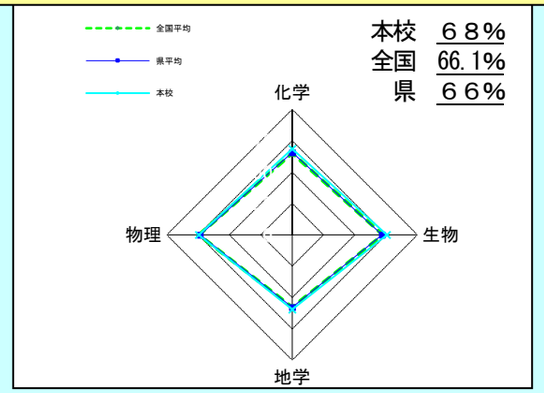
・公立高校の入試問題をふまえた，定期試験を作成し，その問題を出題することをふまえた授業づくりを推進していく。

別紙４

平成３０年度　指導方法等の改善計画について　〔理科〕

呉市立片山中学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率



本校　６８％
全国　66.1％
県　６６％

重点課題

【課題１】風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。
（設問３（１））（平均正答率３６．７％）
台風の移動にともなう，風向の変化に対応できていない。

【課題２】植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。
（設問９（２））（平均正答率２０．０％）
湿度に対する基本的な概念が理解できておらず，温度が一定な場合の湿度の増加の理由を考えることができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】低・高気圧の風の吹き方をしっかり押さえ，それらの移動にともなう，ある地点の風向の変化を，動画を用いて理解させる。さらに，練習問題で繰り返し学習させる。

【課題２】複数の条件のもとでの実験で，ある条件を同じにしてやる場合(対照実験)を復習させる。さらに，湿度決定の要素である温度と水蒸気量のどちらかが一定の場合を考えさせ，練習問題を繰り返しやらせ定着をはかる。

※　小中一貫した取組については，実験結果等をもとに考察することや自分の考えを表現することに課題があるので，練習問題やグループでの討論の機会を増やして定着を図るための指導を行う。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法				３年生 小テスト		２年生 小テスト	
目標値				７０％		６０％	
実施後数値				７３％		６２％	

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法				３年生 小テスト	１年生 小テスト	２年生 小テスト	
目標値				６０％	５０％	５０％	
実施後数値				６５％	４９％	５３％	

来年度に向けて

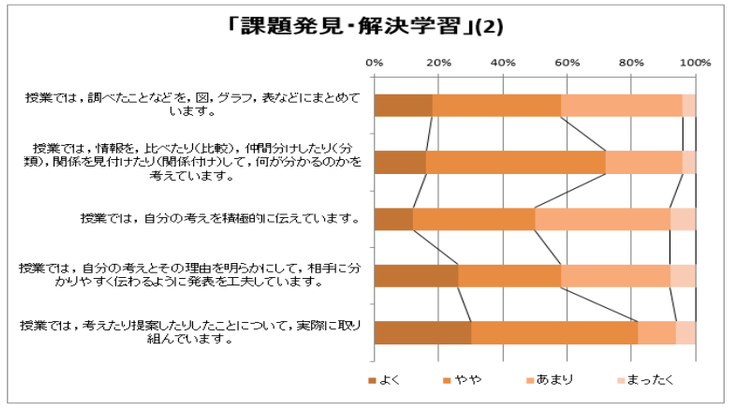
・普段の授業の中で，今回の重点課題をふまえた指導を計画的に行う。

・公立高校の入試問題をふまえた，定期試験を作成し，その問題を出題することをふまえた授業づくりを推進していく。

別紙４

２　質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）　（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）　平成３０年度

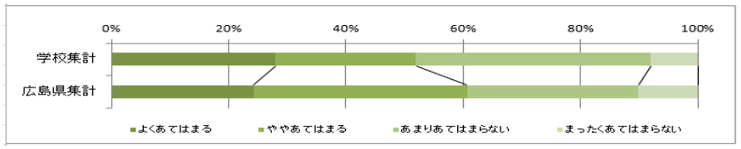
（１）生活・学習



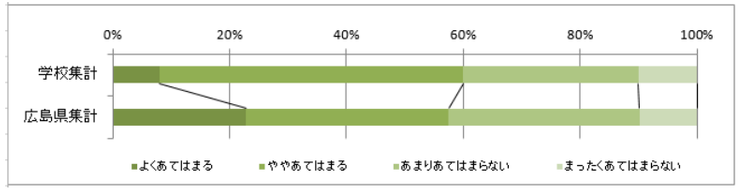
	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
基礎・基本	「授業では、自分の考えを積極的に伝えています。」の肯定的評価が 50%であり,思考することに意欲的であるが,それを伝えようとする数値が低い。	行事や委員・係など、主体的に活動する場を設けたり、授業で学び合いを多く設定して、仲間に伝えていく場面を多くとるように取り組んでいく。	２	６０％	アンケート	２月	６２％	１２％
全国	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の肯定的評価が 60%である。	定期テストや実力試験に向けての取組の仕方を学級や各教科で説明し，見通しをもった学習計画が立てられるように取り組む。	３	７０％	アンケート	２月	７３％	１３％

（２）教科

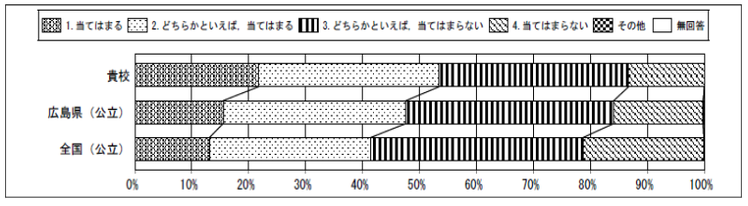
国語の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



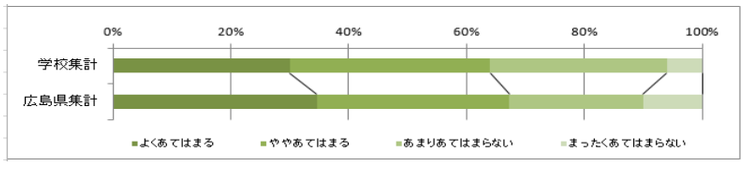
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業で，自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。



英語の授業で学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



		生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	基礎・基本	「国語の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています」の肯定的評価が５２%にとどまり，県平均を８．７%下回った。	学習のめあてをより明確に設定し，振り返りの中で活用についても評価させる。また，並行読書など読書習慣の改善と結び付けた取組みを進める。	２	７０％	アンケート	２月	６９％	１７％
数学	基礎・基本	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の肯定的評価が６０％である。	話し合う場面を積極的に取り入れ，根拠や理由をきちんと説明できるようにしていく。	２	７５％	アンケート	２月	７４％	１４％
	全国	「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」の肯定的評価が５０％である。	単元ごとに，身の回りにある問題を取り入れ，グループ学習などで，自分の考えを発表する場を設定していく。	３	７０％	アンケート	２月	７２％	１２％
理科	基礎・基本	「理科の授業では，自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の肯定的評価が５７％である。	小グループ等での意見交換や話し合いの場をより増やし，発言の機会を増やすよう促す。	２	７０％	アンケート	２月	７１％	１４％
	全国	「理科の授業で，自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」の肯定的評価が５３％である。	小グループ等での意見交換や話し合いの場をより増やし，発言の機会を増やすよう促す。	３	７０％	アンケート	２月	６８％	１８％
英語	基礎・基本	「英語の授業で学んだことをふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」の肯定的評価が６４％で、県集計より低くなっている。	新しい内容や文法を学ぶ時には常にどんな場所で使えるか考えさせ、それを自分で使えるようにペアワークの時間を増やす。	２	７０％	アンケート	２月	７６％	１２％